

市町村名：半田市・常滑市

1. 輸送サービスの範囲

(1) 利用対象地域

半田市中心部・南西部地域、常滑市南東部・西部地域

(2) 利用数（現在：令和7年度（見込））

・現在利用者数（令和7年度）：79,866人
・将来利用者見込数（令和10年度）：79,866人

(3) 路線の特性及び利用者の特徴

・知多半田駅・青山駅・常滑駅への通勤・通学者
・沿線の愛知県立半田特別支援学校、常滑西小学校への通学

(4) 路線の必要性

半田市中心市街地と常滑市中心市街地を結ぶ地域間幹線系統であり、沿線の学校や主要駅等への移動手段として利用されている。
また、半田市内の青山駅や知多半田駅、常滑市内の常滑駅において、コミュニティバス(地域内フィーダー路線等)に接続しており、乗り継ぎにより、地域内の病院や店舗、スーパーなどへの移動手段など地域住民の日常生活における移動手段を確保するために必要である。

2. 輸送サービスの形態

民営バス事業者運行による乗合バス（路線定期運行）

3. 輸送サービスの水準

区分	系統名	運行系統			系統 キロ程	1日当たり 計画運行回数		運行時間帯	備考	
		起点	主な経由地	終点		関係市町村キロ程				
計画 (R7.10)	半田・常滑（A）線	知多半田駅	青山駅前	常滑駅	往 12.0	半田市	往 6.5 復 6.5	8.9	8:15 ～ 19:25	
					復 12.0	常滑市	往 5.5 復 5.5			

4. 輸送サービスの提供主体及びその理由

知多乗合株式会社：自主路線として運行しており、半田・常滑(D)線、半田・常滑(N)線と補完して、利用者の利便を図っているため。

5. 輸送サービスの提供主体及びその理由

区分	系統名	1日当 たり計 画運行 回数 (回) A	計画 平均乗 車密度 (人) B	計画輸送量(人) 1日当たり計画運行回数 ×計画平均乗車密度 《A×B》	キロ当たり 経常費用 (円銭) C	当系統キ ロ当たり 経常収益 (円銭) D	計画実車 走行キロ (km) E	経常費用 (千円) F 《C×E》	経常収益 (千円) G 《D×E》	欠損見込額 (千円) H 《F－G》	負担者別内訳			
											国 (千円)	県 (千円)	市町村 (千円)	事業者 (千円)
計画 (R7.10)	半田・常滑（A）線	8.9	3.8	33.8	407.92	180.98	78,648.0	32,082	14,233	17,849	4,866	4,866		8,117
	(現行からの変更点)													

6. 輸送サービスの利用促進計画

(1) 利用者数の目標

区分	7年度(見込)	8年度	9年度	10年度
年間利用者数 (人)	79,866	79,866	79,866	79,866
※上記目標 設定の考え方	令和7年度の見込み数を維持しつつ、インバウンドの復調を想定して設定した。			

(2) 利用促進策

区分	利用促進策の内容
8年度 9年度 10年度	・ホームページ、広報紙への時刻表掲載、利用促進PR、沿線学校との連携を強化する。 ・半田市内のフィーダー路線（青山・成岩線、半田中央線）や半田北部線との乗り継ぎダイヤの配慮や乗り継ぎ停留所の整備を図る。 ・常滑市内のコミュニティバスグループとの乗り継ぎダイヤの配慮を図る。 ・半田市及び常滑市における運賃助成制度等を継続。

(3) 事業の効果

区分	事業効果の内容
8年度 9年度 10年度	半田・常滑(D)線、半田・常滑(N)線と共に本系統を維持することにより、半田市内及び常滑市内にある主要駅や空港、大型店舗、病院等への移動手段が確保され、半田市民及び常滑市民のくらしの足の確保ができる。

(4) 令和6年度事業評価結果を踏まえた取組等

ホームページ、広報紙への時刻表掲載を行い、利用促進へのPRを進める。自治体間の情報共有に努めるとともに、沿線のイベント情報等の情報発信を協力して行う。

7. 収支改善計画（生産性向上の取組）

(1) 8年度の生産性向上の取組

	運営主体	沿線市町村①		沿線市町村②		沿線市町村③	
		市町村名	半田市	市町村名	常滑市	市町村名	
取組 経費削減策等	関係市町と連携を図りながら、半田・常滑線のPRや周知を行う。 分かりやすく、利用しやすいダイヤの設定を行う。	①フィーダー路線を継続的に実施する。 ②バスロケーションシステムの継続運用・経路検索サイトでのバス情報の公開により、利便性の向上を図る。 ③時刻表の市報への折り込み配布及び公共施設への配架。 ④高齢者運転免許自主返納促進事業の継続により、対象となる高齢者にバス利用券を交付し、利用促進を図る。		①事業者と連絡を密にし、広報誌や市のホームページを活用することで、利用促進に努めていく。 ②コミュニティバスの接続を継続し、コミュニティバスの利便性を向上させることで当該路線の利便性向上を図る。 ③障がい者や高齢者等への運賃助成制度の継続により、利用促進を図る。			
スケジュール等							

(2) 定量的な効果目標

指標	収支改善率1％
----	---------

【参考】経常収支率

4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
28.2%	50.0%	44.0%		

令和８年度 半田・常滑(N)線に係る生活交通確保計画

市町村名：半田市・常滑市

1. 輸送サービスの範囲

(1) 利用対象地域

半田市中心部・南西部地域、常滑市南東部・西部地域

(2) 利用数（現在：令和７年度（見込））

- ・現在利用者数（令和７年度）：59,708人
- ・将来利用者見込数（令和10年度）：59,708人

(3) 路線の特性及び利用者の特徴

- ・知多半田駅、青山駅、常滑駅への通勤・通学者
- ・イオンモール常滑への通勤者、買い物客
- ・沿線の日本福祉大学、愛知県半田特別支援学校、常滑西小学校への通学者
- ・半田病院、常滑市民病院への通院者

(4) 路線の必要性

半田市中心市街地と常滑市中心市街地を結ぶ地域間幹線系統であり、沿線の学校や主要駅等への移動手段として利用されている。
また、半田市内の青山駅や知多半田駅、日本福祉大学、常滑駅等において、地域内フィーダー路線やコミュニティバスへの乗り継ぎにより、地域内の病院や店舗、スーパーなどへの移動手段として地域住民の日常生活における移動手段を確保するために必要である。

2. 輸送サービスの形態

民営バス事業者運行による乗合バス（路線定期運行）

3. 輸送サービスの水準

区分	系統名	運行系統			系統 キロ程	1日当たり 計画運行回数		運行時間帯	備考	
		起点	主な経由地	終点		関係市町村キロ程				
計画 (R7.10)	半田・常滑（N）線	日本福祉大学	知多半田駅	常滑駅	往 21.1	半田市	往 15.6	3.6	6:35 ～ 21:40	
					復 21.0	常滑市	往 5.5 復 5.5			

4. 輸送サービスの提供主体及びその理由

知多乗合株式会社：自主路線として運行しており、半田・常滑(A)線、半田・常滑(D)線と補完して、利用者の利便を図っているため。

5. 輸送サービスの提供主体及びその理由

区分	系統名	1日当 たり計 画運行 回数 (回) A	計画 平均乗 車密度 (人) B	計画輸送量(人) 1日当たり計画運行回数 ×計画平均乗車密度 《A×B》	キロ当たり 経常費用 (円銭) C	当系統キ ロ当たり 経常収益 (円銭) D	計画実車 走行キロ (km) E	経常費用 (千円) F 《C×E》	経常収益 (千円) G 《D×E》	欠損見込額 (千円) H 《F－G》	負担者別内訳			
											国 (千円)	県 (千円)	市町村 (千円)	事業者 (千円)
計画 (R7.10)	半田・常滑（N）線	3.6	5.5	19.8	407.92	206.30	56,155.8	22,907	11,584	11,323	5,154	5,154		1,015
	(現行からの変更点)													

6. 輸送サービスの利用促進計画

(1) 利用者数の目標

区分	7年度(見込)	8年度	9年度	10年度
年間利用者数 (人)	59,708	59,708	59,708	59,708
※上記目標 設定の考え方	令和7年度の見込み数を維持しつつ、インバウンドの復調を想定して設定した。			

(2) 利用促進策

区分	利用促進策の内容
8年度 9年度 10年度	・ホームページ、広報紙への時刻表掲載、利用促進PR、沿線学校との連携を強化する。 ・半田市内のフィーダー路線（青山・成岩線、半田中央線）や半田北部線との乗り継ぎダイヤの配慮や乗り継ぎ停留所の整備を図る。 ・常滑市内のコミュニティバスグループとの乗り継ぎダイヤの配慮を図る。 ・半田市及び常滑市における運賃助成制度等を継続。

(3) 事業の効果

区分	事業効果の内容
8年度 9年度 10年度	半田・常滑(A)線、半田・常滑(D)線と共に本系統を維持することにより、半田市内及び常滑市内にある主要駅や大型店舗、病院等への移動手段が確保され、半田市民及び常滑市民のくらしの足の確保ができる。 半田市西部から半田市役所等への直通運行をすることにより利便性向上を図る。 常滑駅からスムーズに常滑市役所、知多半島りんくう病院や大型商業施設へ乗り継げるようにすることにより、利便性向上を図る。

(4) 令和6年度事業評価結果を踏まえた取組等

ホームページ、広報紙への時刻表掲載を行い、利用促進へのPRを進める。自治体間の情報共有に努めるとともに、沿線のイベント情報等の情報発信を協力して行う。

7. 収支改善計画（生産性向上の取組）

(1) 8年度の生産性向上の取組

	運営主体	沿線市町村①		沿線市町村②		沿線市町村③	
		市町村名	半田市	市町村名	常滑市	市町村名	
取組	関係市町と連携を図りながら、半田・常滑線のPRや周知を行う。 分かりやすく、利用しやすいダイヤの設定を行う。	①フィーダー路線を継続的に実施する。 ②バスロケーションシステムの継続運用・経路検索サイトでのバス情報の公開により、利便性の向上を図る。 ③時刻表の市報への折り込み配布及び公共施設への配架。 ④高齢者運転免許自主返納促進事業の継続により、対象となる高齢者にバス利用券を交付し、利用促進を図る。		①事業者と連絡を密にし、広報誌や市のホームページを活用することで、利用促進に努めていく。 ②コミュニティバスとの接続性向上させることで当該路線の利便性向上を図る。 ③障がい者や高齢者等への運賃助成制度の継続により、利用促進を図る。			
スケジュール等							

(2) 定量的な効果目標

指標	収支改善率1％
----	---------

【参考】経常収支率

4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
57.7%	40.0%	40.2%		